

「近畿大学原子炉運転開始60周年によせて」

(株)千代田テクノル 代表取締役会長 細田 敏和

(近畿大学原子炉工学科卒業二回生)

高校3年生の秋、11月12日に神戸新聞の三面に小さく掲載された記事が私の人生の岐路となりました。「近畿大学原子炉臨界達成」という記事でした。同時に近畿大学に原子炉工学科があることがわかり、調べると「推薦入学制度」が有るというので、その時に近畿大学受験を決意しました。

新聞記事の原子炉・原子力に反応したのは、私の潜在的な記憶によるものだったと思います。1958年（昭和33年）に中学の修学旅行で広島平和祈念資料館（原爆資料館）を見学して、人類史上初めて投下された原爆被害の惨状を見て「なんてむごいことを！人間がやることではない」と思い修学旅行の感想を書いたことがありました。その後3年間は全くこのことを思い出すことがありませんでしたが、神戸新聞の記事を見て広島でのことがくっきりと思い出されました。何をしたい？何が出来るか？を考えることなく自分の頭の中で結びついてしまいました。

実は、あの新聞記事を見るまでは電気・電子に進みたいと思っていました。高校である同級生の女生徒が父親の転勤で浜松に行ってしまいました。浜松には静岡大学工学部があったので、彼女が居る浜松に行きたい一心で静岡大学工学部を受験したいと思っていました。不純な思いを打ち消して近畿大学理工学部原子炉工学科に入学できたことは幸せなことでした。

研究室を選ぶときには、まだ電気・電子にこだわりがあって三木良太教授の応用放射線計測教室を選びました。測定器の製作等が出来てご機嫌な学生生活でした。

就職は大変でした。西脇安先生に紹介していただいた「タケダ理研工業（現在の(株)アドバンテスト）」は書類選考で不採用。実家の近く明石市に工場があった放射線測定器メーカーの神戸工業(株)（現在の(株)デンソーテン）には、中学の同級生の父親が取締役をしており、何とかならないかと頼みに行きましたが、「しっかり勉強して入社試験を受けなさい」と言われ受験し不採用でした。そんなことで焦っていた時に原子炉工学科の掲示板に「千代田保安用品(株)（(株)千代田テクノル）」の求人案内が張り出されていたので同窓生の沢野靖さんと二人で受験して、二人とも採用され何とか入社出来ました。

会社創業9年目でフィルムバッジ・サービスと放射線防護用品の販売、除染作業を行う会社でしたが、技術職も含めてほとんど診療放射線技師の会社でした。原子力を勉強してきて就職したのは私の2年先輩からで、その方々は東海大学工学部原子力工学科の卒業生でした。私は入社2年目に東京本社から水戸営業所へ転勤になり、当時の原子力のメッカ日本原子力研究所、動力炉・核燃料開発事業団、日立製作所、日本原子力発電(株)等を担当して、原子力の専門の方々との対応で原子炉工学科卒業と言うことが大変役に立ち、多くの仕事を頂きました。動力炉・核燃料開発事業団には、原子炉工学科の卒業生ではありませんが、応用化学科を卒業された辻信雄先輩がおられ可愛がっていただきました。日本原子力研究所には、原子炉工学科一期生の亀井満先輩、日本原子力発電株式会社には同じく一期生の船本久雄先輩がおられ、先輩方に懇意にして頂き業績も伸び、実家からは遠く離れた水戸での生活・仕事は、むしろ快適でした。

のちに船本先輩を会長として関東地区在住の近畿大学原子炉工学科卒業生を中心とした同窓会「東京原子力の会」を結成しました。一昨年に伊藤哲夫原子力研究所長のご指導の下、校友会東京原子力支部と発展改組され、一層絆が強くなりました。

近畿大学原子炉臨界60周年を衷心からお祝い申し上げます。今後も原子力の安全教育に寄与されますようお願い申し上げます。